DAIDO UNIVERSITY NEWS

DAIDO CAMPUS

ISSUE
112
2025年
7月発行

特集

副学長コラム！

マンガで読むハレ晴レユカイな日々？！ ほか



大同大学
自分が変わる、未来を変える。

2025年度入学式を挙行しました

告　辞

大同大学に入学された皆さん、大学院に入学された皆さん、入学おめでとうございます。

また、これまでお子様を支えてこられたご家族や保護者の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。そして、ご臨席賜りました、ご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。本日、このように関係の方々が一堂に会し、新入生をお迎えできることを、とても有り難く、そして大変嬉しく思います。私たち教職員と在学生は、皆さんを心から歓迎いたします。

本学に入学された皆さんは今、初めての環境で不安もあると思いますが、それを上回る大きな夢や希望に胸を膨らませていることと思います。一方で、皆さんの中には、自分が選んだ道が正しかったのか、不安に感じている人もいるかもしれません。しかし、大切なのは、今いる環境をしっかり受け入れ、そこで精一杯努力し、自らの選択を正解にしていくことだと思います。それを実現し、大学生活を充実したものにするためのポイントを、3つお伝えします。

まず1つ目は、「挑戦すること」です。

入学したら、やってみよう、取り組んでみようと思っていることが、たくさんあると思います。ぜひ実行してください。興味を持ったことを深く掘り下げてもいいですし、資格取得を目指してもいい、クラブ活動に熱中してもいい、本をたくさん読んでもいいですし、映画をたくさん見てもいい。やりたいことは人それぞれです。人と違って構いません。まず第一歩を踏み出して下さい。

私が大学院生のころの話をします。私の専門分野は建築環境工学ですが、研究テーマとして取り組んだのは「炬燵」です。初めて学会で発表した時は、なんで炬燵なんかを研究するのかと、会場で笑われました。しかし、めげずに、大真面目に炬燵を研究し続け、何度も研究発表するうちに、次第に認めていただけるようになり、論文も採択されました。今では、数少ない炬燵の研究者として認めていただいております。興味を持ったら何事にも挑戦し、情熱を持ってやり続けることの大切さを痛切に感じています。

2つ目は、「失敗を恐れないこと」です。

どんなことでも、自分がやろうと思ったことを実行し、達成できれば、それは大きな自信になります。しかし、ときには挑戦した結果、失敗することもあるでしょう。失敗しても、上手くいかなくても構いません。失敗したら、皆さんは貴重な経験を得て、成長できるからです。そしてさらに、皆さんには、挫折や失敗から立ち直ることも学んで欲しいと思います。

私自身もこれまで多くの挫折や失敗、回り道や寄り道をしてきました。しかし、それらを全部含めて私の人生です。これらの経験があるからこそ、今の自分があると思っています。人生に無駄なことなど1つもありません。ぜひ皆さん、色々なことに挑戦してください。やるかやらないか迷ったら、是非やる方を選んで下さい。

また、ゴールに最短で到達する必要はありません。回り道や寄り道をしても構いません。道草をすると新たな発見や気付きがあり、視野が広がります。このように、失敗したり、試行錯誤したりできるのが、大学の学びの醍醐味だと思います。

最後の3つ目は、「様々な人や物事に出会うこと」です。

私は、大学は出会いの場であると考えています。ぜひ、信頼できる友達と出会って下さい。学生時代の友達は一生の財産になります。また、自分を導いてくださる尊敬できる先生と出会って下さい。恩師がいると人生が豊かになります。

出会いは人だけではありません。自分の力を試すことができるチャンスと出会って下さい。真剣勝負できる場は皆さんを飛躍的に成長させます。そして、ワクワクする学問と出会って下さい。待っているだけでは出会えないかもしれません。少しの勇気を持って一歩を踏み出して下さい。

大同大学は2030年までに本学の目指す目標を「DAIDO VISION 2030」としてまとめました。その「合い言葉」は「自分が変わる、未来を変える」です。ぜひ、自分が変わることで、自分の未来を変えてください。さらに、自分が変わることで、これからの社会の未来を変えてください。

さぁ、今日から、新しい一歩を踏み出し、自分を変えていきましょう。

皆さんが大同大学で、多くの人や物事と出会い、様々なことに挑戦し、失敗や挫折を乗り越え、その経験を糧として、大きく成長されることを心から願っています。

本日は誠におめでとうございます。

二〇二五年 四月 一日

大同大学長　渡邊 慎一

















2024年度 学位記授与式を挙行しました

告　辞

学部卒業の皆さん、卒業おめでとうございます。大学院修了の皆さん、修了おめでとうございます。

卒業や修了の喜びは、皆さん一人ひとりの努力の賜物ですが、ご家族や保護者の皆様をはじめ、周囲の方々の温かい支援の賜物でもあり、関係の皆様に、心からお祝い申し上げます。

また、本日の佳き日を祝うためにご臨席賜りました、ご来賓の皆様に心より御礼を申し上げます。

大同大学は皆さんを加えて、学部は33,688名の卒業生、大学院研究科は1,211名の修了生を社会に送り出したことになります。本学の卒業生・修了生は東海地方を中心に全国で活躍しています。皆さんも大同大学の卒業生・修了生として、その誇りを胸に、自信を持って社会に羽ばたき、それぞれの分野で大いに活躍してください。

大同大学は昨年、創立60周年という節目の年を迎えました。大同大学を作った大同製鋼（現在の大同特殊鋼です）のルーツをたどると、大同電力に行き着きます。大同電力の初代社長は、後に日本の電力王と呼ばれた福澤桃介です。大同電力は後に中部電力と関西電力になりました。桃介は福澤諭吉の娘婿で、多くの企業の設立に参画し、特に木曽川の水力発電の開発に情熱を注ぎました。今日の式典の最後に歌う大学の歌、学歌の冒頭に「木曽の流れは長くして 電力を産み 製鋼と学校起こる」と歌われています。彼の情熱からこの大同大学は出発しているのです。皆さんもまた、この精神を受け継ぎ、それぞれの分野で情熱を持って、挑戦し続けてください。どのような道を歩もうとも、大同大学で培った知識、経験、そして人との繋がりは、きっと皆さんの力となります。

学部生の皆さんが本学に入学された4年前、まだ新型コロナウィルスが世界中で猛威を振るっており、様々な活動が制限されていました。皆さんの入学式も、午前と午後に分け、新入生のみが出席し、保護者の方は会場にお入りいただくことはできませんでした。あの時のことを、皆さんは鮮明に覚えているのではないでしょうか。ワクワクとした期待とともに、不安も抱えながら、皆さんは大学生活の第一歩を踏み出しました。入学後も、緊急事態宣言が発令されるなど、コロナ禍に振り回されながらの大学生活が続きました。そして、ようやくコロナ禍が収束し、徐々に日常生活が戻ってきました。

皆さんは多くの困難を乗り越えて、本日、卒業・修了します。

私は、皆さんがコロナ禍であっても、真摯に勉強に取り組んだことを知っています。苦しい状況でも情熱を持ってクラブ活動に取り組んだことを知っています。お互い切磋琢磨して素晴らしい卒業論文・卒業制作・修士論文を成し遂げたことを知っています。皆さんはコロナ禍に大きく影響を受けた世代ですが、コロナなんかには負けないことを明確に証明してくれた世代でもあります。この困難を乗り越えた経験は、皆さんの今後の人生できっと役に立つと確信しています。

そんな皆さんを支えてくれたのは、まさしくご家族や保護者の方々です。ご家族や保護者の方々は、お子様が大同大学に入学し、晴れやかな思いをするはずだったのに、入学式に参列することもできませんでした。様々な制約がある中でのお子様の学生生活を見守るしかなかったのです。どれほど心配だったことか、想像に余りあります。そのような状況にも関わらず、本学をずっと信頼してくださいました。そして本日、この式典にご出席くださり、立派に成長したお子様の卒業・修了を一緒にお祝いできることは、とても有り難いことであり、これまでお子様を支えてこられたご家族や保護者の方々のご努力に対し、心より敬意を表します。

最後に私の経験から皆さんにお伝えしたいことがあります。同じ時間と空間を共有し、苦楽を共にした学生時代の友達は、一生の友達になります。これは大きな財産です。どうぞこれからも友達を大切にしてください。また、いつまでも皆さんを優しく見守ってくれるご家族も大切にしてください。そして、なにより自分自身も大切にしてください。健康に気をつけ、困難があっても前向きな気持を持ち続け、夢や目標に向かって挑戦し続けて下さい。皆さんの未来には無限の可能性が広がっています。情熱を持って、自らの道を切り拓き、社会で大いに活躍することを願って、告辞といたします。

二〇二五年 三月 二十一日

大同大学長　渡邊 慎一













2024年度 学位記授与式 学長賞表彰

学長賞〈学業〉

学科・専攻	氏名	指導教員
機械工学科	市原 慶悟	杣谷 啓
	杉山 睦樹	坪井 涼
機械システム工学科	小川 采夏	大嶋 和彦
	山内 満博	井原 禎貴
電気電子工学科	野村 伊吹	赤池 宏之
	倉田 向陽	植田 俊明
建築専攻	中村 來珠	武藤 隆
インテリアデザイン専攻	城内 颯太	岡本 洋輔
かおりデザイン専攻	森弘 深音	光田 恵
情報システム学科	原田 悠馬	宮島 千代美
	阿部 智大	芋野 美紗子
情報デザイン学科	山本 実歩	原田 昌明
	柳本 雛多	舟橋 慶祐
経営情報コース	村上 葉瑠	藤井 浩明
スポーツ情報コース	齋藤 さつき	齊藤 慎太郎

学長賞〈研究活動〉

学科・専攻	氏名	指導教員
機械システム工学科	宇佐美 颯	大嶋 和彦
	大久保 晴友	大嶋 和彦
建築専攻	小木曽 力斗	船橋 仁奈

学会賞〈学部〉

学会・賞名	氏名	指導教員
日本機械学会 畠山賞	神谷 佳孝	白石 裕之
	新美 成寿	坪井 涼
	小川 采夏	大嶋 和彦
	喜多 将也	吉田 昌史
日本設計工学会 武藤栄次賞	竹下 碩人	宮本 潤示
精密工学会東海支部 優秀学生賞	尾崎 琉翠	萩野 将広
	神﨑 岳斗	宮本 潤示
	鈴木 省吾	橋口 宏衛
	山内 満博	井原 禎貴
計測自動制御学会 優秀学生賞	小川 采夏	大嶋 和彦

学長賞〈大学院〉

専攻	氏名	指導教員
機械工学専攻（機械工学）	鳥越 翔真	高田 健
機械工学専攻（機械システム工学）	羽田 暁裕	小里 泰章
電気・電子工学専攻	渡邉 朝功	加納 善明
建築学専攻	鈴木 稜馬	武藤 隆
	中野 創大	宇野 享
都市環境デザイン学専攻（土木・環境）	伊藤 純	樋口 恵一
都市環境デザイン学専攻（かおりデザイン）	林 憧子	光田 恵
情報学専攻（情報システム）	村松 大智	君山 博之
情報学専攻（情報デザイン）	新美 佑馬	佐々木 勝史

学会賞〈大学院〉

学会・賞名	氏名	指導教員
日本機械学会 三浦賞	板倉 風雅	前田 安郭
	松原 俊亮	吉田 昌史
日本設計工学会 武藤栄次賞	平松 智哉	蔦森 秀夫
自動車技術会 大学院奨励賞	板倉 風雅	前田 安郭
日本鋳造工学会 研究奨励賞		
軽金属学会 希望の星賞	鳥越 翔真	高田 健
計測自動制御学会 優秀学生賞	羽田 暁裕	小里 泰章

渡邉静さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

日本銅学会第64回講演大会で研究発表しました



2024年10月18日（金）～20日（日）、宇都宮市で行われた日本銅学会第64回講演大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 田中研究室 2年 渡邉静さんが「選択酸化により作製したAg-SnO2接点材のCu系基板へのレーザ接合」というタイトルで発表を行いました。

渡邉さんは、学部生の頃から電気接点（スイッチ）に使われる銀（Ag）系材料と銅（Cu）基板との接合方法を研究してきました。今後は電気抵抗を調査していくと話しています。

板倉風雅さん、近藤史崇さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

日本鋳造工学会・第184回全国講演大会で研究発表しました

2024年10月25日（金）～27日（日）に公益社団法人日本鋳造工学会・第184回全国講演大会が富山国際会議場で開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 板倉風雅さん、同専攻 1年 近藤史崇さんが研究発表を行いました。

発表した研究テーマは下記のとおりです。

◆板倉さんの研究テーマ

「ダイカストにおけるプランジャ前進速度を可変したときのアルミニウム合金のスリーブ内波動挙動」

◆近藤さんの研究テーマ

「粒度分布をもつ離散要素を用いたスクィーズ造型解析における近傍粒子探索による高速化」

前田研究室のサイトはこちら
https://yasuhiro-maeda.com/

加藤大翔さん、近藤史崇さん、三輪建翔さん
（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

日本鋳造工学会東海支部・鋳造技術対談・若手技術者フォーラムで研究発表しました

2024年11月4日（月・祝）、公益社団法人日本鋳造工学会東海支部・鋳造技術対談&若手技術者フォーラムが大同大学で開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室1年 加藤大翔さん、近藤史崇さん、三輪建翔さんがポスター研究発表を行いました。なお、近藤さんは急遽欠席となったため工学部 機械工学科 4年 下前友雄紀さんが代わりにポスター発表を行いました。

発表した研究テーマは下記のとおりです。

◆加藤さんの研究テーマ

「冷却曲線を用いた鋳造CAEにおける熱伝達係数同定の試み」

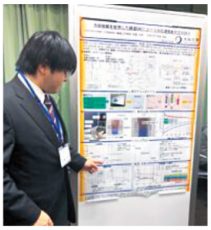
◆近藤さんの研究テーマ

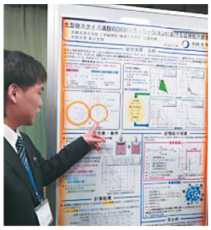
「生型砂スクイズ過程のDEMシミュレーションにおける近傍粒子探索」

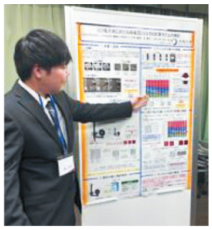
◆三輪さんの研究テーマ

「SPH粒子法における鋳造用フィルタの計算モデルの検討」

前田研究室のサイトはこちら
https://yasuhiro-maeda.com/


▲発表をする加藤さん


▲近藤さんの代わりに発表をする下前さん


▲発表をする三輪さん

宮部朔さん（大学院 工学研究科 都市環境デザイン学専攻）

第35回日本都市計画学会中部支部研究発表会にてポスター発表をしました

2024年10月12日（土）、椙山女学園大学星ヶ丘キャンパスで開催された「2024 年度（第 35 回）日本都市計画学会中部支部研究発表会」で、大学院 工学研究科 修士課程 都市環境デザイン学専攻 嶋田研究室 宮部朔さんがポスター発表をしました。題目は「特例特定小型原動付自転車における占有幅の検討」です。

公益社団法人日本都市計画学会中部支部のサイトはこちら
https://www.cpij.or.jp/chubu/?page_id=161

加藤大翔さん、三輪建翔さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

The 75th WORLD FOUNDRY CONGRESSで研究発表を行いました

2024年10月25日（金）～30日（水）、The 75th WORLD FOUNDRY CONGRESSが中国四川省の徳陽市で開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 1年 加藤大翔さん、三輪建翔さんが研究発表を行いました。

発表した研究テーマは下記のとおりです。

◆加藤さんの研究テーマ

「An Attempt to Identify Heat Transfer Coefficients in Casting CAE Using Cooling Curves」

◆三輪さんの研究テーマ

「Calculation Model of Casting Filter in Mold Filling Simulation using Particle-based SPH Method」



▲（左から）三輪建翔さん、加藤大翔さん

75th WFCのサイトはこちら
https://www.75wfc.com/

前田研究室のサイトはこちら
https://yasuhiro-maeda.com/

宇佐美颯さん、大久保晴友さん（機械システム工学科）

ヤマハ株式会社のスピーカーイベントに出品し、活躍が取り上げられました


▲聴衆に説明する様子

2024年10月6日（日）、東京・神田の損保会館にて「ヤマハと創るスピーカー自作&試聴イベント」が開催され、工学部 機械システム工学科 4年 宇佐美颯さんと大久保晴友さんが製作したスピーカーが試聴に供されました。

このイベントは、ヤマハ株式会社が電子楽器用に開発したスピーカーユニットを用いてスピーカーを自作するイベントで、全国から70を超える応募がありました。選考の結果、試聴会には10作品が選ばれ、宇佐美さんと大久保さんの作品「ブルートルネード」は、工学部の学生らしく3Dプリンターを活用した個性的なデザインが評価されました。

ひと際目を引いた作品の開発者として宇佐美さんと大久保さん、その製作を指導した工学部 機械システム工学科 大嶋和彦教授がインタビューを受け、内容が公開されました。

内容やイベントの詳細、ヤマハ株式会社のサイトはこちら
https://member.jp.yamaha.com/topics/3420

応募作品はこちら
https://member.jp.yamaha.com/topics/3300?utm_source=ymmembers&utm_medium=email&utm_term=20241018&utm_content=link02&mkt_tok=MzU0LVRKQi05NDgAAAGWPcuR6DThTRgaZEmV2X-ufuOstkexHhs6bkh8AoHGQ46M3PFrTT_HNoYZwjOxIG65JWSXGYrZ4Q_5Nd_IEavtWLdSF6wZvrtXNbvhkmnn

小原拓夢さん、鳥越翔真さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

軽金属学会にて研究発表を行いました



2024年11月9日（土）、10日（日）、群馬大学 太田キャンパスで軽金属学会の秋期大会が開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 小原拓夢さんと鳥越翔真さんが研究発表を行いました。

小原さんの研究は名古屋大学の透過電子顕微鏡にて得られた析出物の画像解析による定量値化であり、発表はポスターにて行いました。この研究では情報学部 情報システム学科 柘植覚教授と宮島千代美教授から指導をいただきました。この発表では同専攻1年 長谷川凱土さんが連名となっています。

鳥越さんの発表は軽金属学会研究部会での活動結果であり、口頭で発表しました。共同研究者は北海道大学の池田先生と国立研究開発法人 物質・材料研究機構の井先生であり、両先生と同専攻 2年 都築佑翔さんと中嶋洋介さんが連名となっています。また、開催されたテーマセッションでは工学部 機械工学科 高田健教授から、名古屋大学とあいちシンクロトロン光センターとの共同研究内容が発表されました。さらに、同セッションでは本学と北海道大学との共同研究成果が北海道大学から発表されました。

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

◆小原さんのタイトル
「画像処理によるAl-Mg-Si合金中析出物の定量値化」

◆鳥越さんのタイトル
「加工熱処理を施したAl-Mn合金の等温熱処理での組織変化」

◆高田教授のタイトル
「Al-Mg-Si合金の等温時効での析出過程の調査」

都築佑翔さん、知野見仁紀さん、長谷川凱土さん、大島諒真さん、山本倫也さん、岡田果也さん、齊藤俊輝さん、本多結希さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

材料フォーラムTOKAIにて研究発表を行いました

2024年11月15日（金）、鉄鋼協会、日本金属学会、軽金属学会の3学会の東海支部が主催する材料フォーラムTOKAIが豊橋市民センターで開催されました。このフォーラムでは、東海地区にある大学の大学院生によるポスターセッションと基調講演が行われました。ポスターセッションでは、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻の大学院生が発表を行いました。

所属研究室、発表者、内容は以下の通りです。

〈高田研究室〉

◆都築佑翔さん（修士課程 2年）のテーマ
「Al-Mg-Si合金における予備時効の硬化挙動への影響」

◆知野見仁紀さん（修士課程 2年）のテーマ
「パラジウム中水素濃度が電気抵抗率・発熱へおよぼす影響」

◆長谷川凱土さん（修士課程 1年）のテーマ
「Al-Mg-Si合金中の過時効析出物の形態変化」

〈西脇研究室〉

◆大島諒真さん（修士課程 1年）のテーマ
「高ひずみ速度での多軸応力場の試験が可能な引張試験片の開発」

〈鳶森研究室〉

◆山本倫也さん（修士課程 2年）のテーマ
「高ひずみまで取得可能な二軸引張試験片形状に関する研究」

◆岡田果也さん（修士課程 1年）のテーマ
「液圧バルジ試験を用いた異方性モデルの他パラメータ簡易取得」

◆齊藤俊輝さん（修士課程 1年）のテーマ
「二軸引張における異方硬化モデルがしわ発生に与える影響」

◆本多結希さん（修士課程 1年）のテーマ
「関連流動則の実験的検証」

羽田暁裕さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

国際会議（ISTP-34）で研究発表を行いました



2024年11月10日（日）～14日（木）、台湾・桃園市で開催された 34th International Symposium on Transport Phenomena（ISTP-34）において、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 小里研究室 2年 羽田暁裕さんが「Study on Flow Control around a Rectangular Cylinder by Adding Periodic Fluctuation」という題目で研究成果の発表を行いました。

◀発表を行った羽田さん

宇佐美颯さん、大久保晴友さん（機械システム工学科）

スピーカーコンテストで受賞しました



2024年10月8日（火）、広島市で活動するオーディオサークル・オメガの会が主催するスピーカーコンテストに、工学部 機械システム工学科 4年 宇佐美颯さんと大久保晴友さんが参加しました。このコンテストは、数少ない全国規模のコンテストです。グランプリ以外に3つの部門賞があり、そのうちの「3Dマトリックス賞」に2人の作品が選ばれました。

▲受賞作品を前に賞状を持つ
大久保さん（左）と宇佐美さん（右）

平田祐貴さん、鈴木佳那子さん（大学院 工学研究科 建築学専攻）
河本駿哉さん（建築学科 建築専攻）

愛知建築士会主催の「建築・まちづくり学生活動報告コンペ」公開二次審査にて入賞しました

2024年10月13日（日）、全国まちづくり会議inナゴヤとの共同企画として開催された愛知建築士会主催の「建築・まちづくり学生活動報告コンペ」公開二次審査にて、よりどころ研究会の活動が入賞しました。

よりどころ研究会は、2024年5月に発足した大同大学の学生団体であり、主に金山総合駅周辺地域のまちづくりに取り組んでいます。受賞メンバーは、大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 2年 平田祐貴さん、同専攻 1年 鈴木佳那子さん、建築学部 建築学科 建築専攻 3年 河本駿哉さんです。

今年度は「金山学園祭」という金山総合駅で行われる他大学との合同イベントを主軸に多くのプロジェクトを実践してきました。その積極的な姿勢が評価され、「建築・まちづくり学生活動報告コンペ」で入賞しました。



▲発表の様子



▲受賞したメンバー

三治蒼さん、寺町剛明さん（建築学科 都市空間インフラ専攻）

第44回緑の都市賞、内閣総理大臣賞を受賞しました

2024年12月16日（月）、東京の明治記念館で、第44回緑の都市賞、内閣総理大臣賞の表彰式が執り行われました。本学学生が参加するインカレサークル「命をつなぐPROJECT」が受賞しました。表彰式には佳子内親王も参加され厳かな雰囲気の中式典が行われました。

建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻 4年 三治蒼さん、同専攻 3年 寺町剛明さんが参加するインカレサークル「命をつなぐPROJECT」は今年で14年目を迎える学生団体です。その継続的な活動が評価され今回の受賞につながりました。三治さんは「ここまで活動をつなげてくださった先輩に感謝を申し上げるとともに、連携先の企業の方や専門家の方、NPOの方など多方面の方からの手厚いサポートにも感謝の意を改めて表したいです」と語っています。



▲表彰式の様子
（左から）寺町さん、人間環境大学池田直さん、日本エコロジスト支援協会事務局北村さん、三治さん

白山太一さん（大学院 情報学研究科 情報学専攻）

テレビ愛知「熱闘!ロボットバトル」に出演しました

2月24日（月・祝）午前11時放送、テレビ愛知『熱闘!ロボットバトル 第17回愛知県工業高校生ロボット競技大会』にOBとして大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 舟橋研究室 1年 白山太一さんが出演しました。白山さんはこの大会で過去2度の優勝実績があり、OBとして取材を受けました。番組内では母校の学生へのコメントや大同大学での課外活動であるInnovation AI LABについて紹介されました。

番組サイトはこちら
熱闘!ロボットバトル 第17回愛知県工業高校生ロボット競技大会
https://tv-aichi.co.jp/r_battle/2025/

中村來珠さん（建築学科 建築専攻）

『Nagoya Archi Fes 2025 中部卒業設計展』で入賞しました!

3月18日（火）、19日（水）、ポートメッセなごやで開催された『Nagoya Archi Fes 2025 中部卒業設計展』で、建築学部 建築学科 建築専攻 武藤隆研究室 4年 中村來珠さんの作品が入賞しました。

Nagoya Archi Fes 2025 中部卒業設計展（通称NAF）は、今年度で12年目を迎える中部地方の建築系大学からの応募を対象とした卒業設計展で、今年度は約80名の中部の建築学生が卒業設計作品を出展しました。

中村さんの「海と記憶の間隙 ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築 ー」は、1日目の審査では1日目の最優秀賞である「Nagoya Archi Fes賞」と「岩月美穂賞」に、2日目の審査では8人のファイナリストに選考され、公開審査によって、最優秀賞に選出されました。この2日間通しての2冠という結果は、中部卒業設計展が始まって以来初めてとなる快挙です。

Nagoya Archi Fes 2025のサイトはこちら
https://www.nagoya-archi-fes-hp.com/



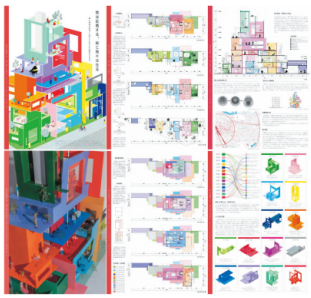
▲中村さんの作品
「海と記憶の間隙 ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築ー」



▲2日間通しての2冠を達成した中村さん

福田羽和さん（建築学科 インテリアデザイン専攻）

日本インテリアプランナー協会中部『CIP学生賞』を受賞しました!



▲福田さんの卒業設計作品
「我は拡張する、故に我々は在る」

日本インテリアプランナー協会中部（CIP）が主催する『CIP学生賞』に、建築学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 船橋研究室 4年 福田羽和さんの卒業設計作品「我は拡張する、故に我々は在る」が選出されました。

CIP賞は日本インテリアプランナー協会中部が主催する、中部地域のインテリアを学ぶ学生の卒業設計作品を対象とした顕彰制度です。今回のCIP学生賞受賞作品は、2025年6月発刊予定の「CIP情報誌」に掲載され、CIP通常定期総会の会場内にて作品パネルとともに発表されます。

日本インテリアプランナー協会中部の詳細はこちら
http://www.chubu-ip.com/

加藤碧さん、杉明香里さん、松井朱日里さん（情報デザイン学科）

「令和6年度デザインパテントコンテスト」で受賞しました!

「令和6年度デザインパテントコンテスト（主催：文部科学省・特許庁・日本弁理士会など）」で、情報学部 情報デザイン学科 3Dデザイン分野 舟橋研究室 4年 加藤碧さん、杉明香里さん、同研究室 3年 松井朱日里さんが優秀賞を受賞しました!今年度は791件の応募があり、見事27件の入賞者に選ばれました。出品したのは「応用CAD実習A（担当：舟橋慶祐 教授）」の木製スプーン作品と「情報デザイン基礎実習D（担当：佐々木勝史 教授・吉田充宏 非常勤講師）」のドアノブ作品です。



▲（左）杉さん、（中央）加藤さん、（右）松井さん

さらに上位7名にのみ与えられる特別賞の一つ特許庁長官賞を加藤碧さんの作品「Washer」が受賞し、情報デザイン学科として9年連続の受賞となりました。

デザインパテントコンテストのサイトはこちら
https://www.inpit.go.jp/patecon/r06dp_results.html

杉山瑛一さん、大塚大雅さん
（大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻）

FM AICHI『中電シーティーアイ Welcome Generation』に出演しました



▲ラジオ収録の様子

5月22日（木）20:30～21:00にFM AICHIで放送された『中電シーティーアイ Welcome Generation』に工学部 電気電子工学科 加納善明教授、大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 1年 杉山瑛一さん、大塚大雅さんが出演しました。『中電シーティーアイpresents Welcome Generation』は、未来に向かって挑戦する学生、未来世代のリアルボイスを発信する番組です。内容は、理工系の学生を対象に、今取り組んでいることや未来に叶えたい夢などのインタビューです。収録は本学の加納先生の研究室で行いました。加納先生は研究テーマであるモータについて分かりやすく説明され、学生は自身の研究内容や将来の夢について話していました。

小木曽力斗さん、鎌田蓮人さん（建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻）

『赤れんが卒業設計展2025』にて100選に選出されました!

3月27日（木）、『赤れんが卒業設計展2025』の公開審査が行われ、建築学部 建築学科 建築専攻 船橋研究室 小木曽力斗さん（2024年度卒業生 現 大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）の卒業設計作品「都市の劇場ー仮想境界による狭間の改修ー」、同学科 インテリアデザイン専攻 武藤研究室 鎌田蓮人さん（2024年度卒業生 現 大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）の「朱 ー千本松原と対話する小屋ー」が100選に選出されました。公開審査会では、審査委員長の内藤廣氏をはじめ、原田真宏氏、中村拓志氏、山崎健太郎氏、高野洋平氏など豪華建築家陣にプレゼンする機会を得ることができ、貴重な経験となりました。3月28日（金）～30日（日）、横浜赤レンガ倉庫にてプレゼンシートと模型が一般公開され、2026年2月には入賞作品や100選作品が掲載された作品集が出版予定となっています。

赤れんが卒業設計展2025はこちら
https://www.akarengadiploma.com


▲小木曽さんの作品


▲鎌田さんの作品

杉山玲那さん（建築学科 インテリアデザイン専攻）、
中村來珠さん、福田羽和さん、小木曽力斗さん（大学院 工学研究科 建築学専攻）

『第30回JIA東海学生卒業設計コンクール2024』で入賞・入選しました!

4月12日（土）、公益社団法人日本建築家協会東海支部が主催する『第30回JIA東海学生卒業設計コンクール2025』の二次審査会が行われ、建築学部 建築学科から4名の卒業生が入賞・入選する結果となりました。最終審査に進んだ10名のうち4名を同学科の卒業生が占めただけでなく、入賞者5名のうちの3名を本学の学生が占めるという、かつてない快挙を成し遂げました。

受賞者は以下の通りです。

◆銀賞　杉山玲那さん
（2024年度 建築学部 建築学科 インテリアデザイン専攻卒業）
「騒音から奏音へー住工混在地域における音風景の提案ー」（船橋研究室）

◆銅賞　中村來珠さん（大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）
「海と記憶の間隙 ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築ー」（武藤研究室）

◆銅賞　福田羽和さん（大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）
「我は拡張する、故に我々は在る」（船橋研究室）

◆入選　小木曽力斗さん（大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）
「都市の劇場ー仮想境界による狭間の改修ー」（船橋研究室）

なお、銀賞を受賞した杉山さんと、銅賞を受賞した中村さん、福田さんの卒業設計作品は、6月28日（土）に開催された『JIA全国学生卒業設計コンクール2025』へ進出しました。

『第30回JIA東海学生卒業設計コンクール2025』の最終結果はこちら
http://www.jia-tokai.org/info/1830


▲（左から）小木曽さん、杉山さん、福田さん、中村さん


▲応募作品
杉山さん（上左）、中村さん（上右）、福田さん（下左）、小木曽さん（下右）

松井朱日里さん（情報デザイン学科）

「第35回ザッカデザイン画コンペティション」で受賞しました!


▲受賞した松井さん

「第35回ザッカデザイン画コンペティション（主催：台東ファッションフェア実行委員会）」において、情報学部 情報デザイン学科 3Dデザイン分野 舟橋研究室 3年 松井朱日里さんが、レザーイノベーション部門で優秀賞を受賞しました。松井さんが出品したのはレザー製ペン立て「stretch」です。今年度は2,336件の応募があり、高い競争率を見事に勝ち抜いて28名の受賞者の一人に選ばれました。

受賞作品はこちら
https://www.taito-zakka-fair.jp/compe/prize2024/

松井 花恋 さん（2022年度卒業 情報デザイン学科）

CBC「チャント」の取材を受けて出演しました

4月14日（水）に放送されたCBCテレビ「チャント!」に情報学部 情報デザイン学科 岡田研究室 2022年度卒業生 松井花恋さんが取材を受け、コメントしました。シヤチハタ株式会社百周年を受けた取材の中では、松井さんが企画した、子供の成長を手形で記録するスタンプ台についてコメントを寄せました。肌に優しいインクを使用し、にじみにくいなど工夫がされています。また、松井さんは、シヤチハタ株式会社の百周年記念事業の企画にも関わっています。

中村來珠さん、杉山玲那さん（建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻）

日本建築学会主催「第66回全国大学・高専卒業設計展示会」で展示されます!

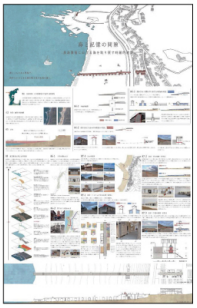
一般社団法人 日本建築学会が主催する「第66回全国大学・高専卒業設計展示会」にて、建築学部 建築学科 建築専攻 武藤隆研究室 2024年度卒業生 中村來珠さん（現 大学院 修士課程 工学研究科 建築学専攻 1年）の卒業設計作品「海と記憶の間隙ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築ー」と、建築学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 船橋仁奈研究室 2024年度卒業生 杉山玲那さんの卒業設計作品「騒音から奏音へー住工混在地域における音風景の提案ー」が展示されます。

この展示会は、全国の大学・短期大学・高等専門学校など建築系学科で2024年度に行われた卒業設計の中から、優秀作品を展示するものであり、全国30会場を巡回します。

名古屋では11月26日（水）～30日（日）まで、公益社団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター 11階企画展示スペースにて開催される予定です。

詳細はこちら
https://www.aij.or.jp/sotsuten.html

◆日本建築学会「第66回全国大学・高専卒業設計展示会」
出展作品リスト
https://www.aij.or.jp/sotsuten_2025.html
巡回展
http://news-sv.aij.or.jp/sotsuten/2025/2025.pdf


▲中村さんの卒業設計作品
「海と記憶の間隙ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築ー」


▲杉山さんの卒業設計作品
「騒音から奏音へ ー住工混在地域における音風景の提案ー」

木村日菜美さん、足立菖さん（情報デザイン学科）

伝統行事「田んぼの楽校」で使用する木型をデザイン・製作しました!


▲（左から）木村さん、深谷先生、足立さん

名古屋市内にある戸田川緑地公園で毎年開催される伝統行事「田んぼの楽校」で使用する米粉から作る愛知の伝統食おこしもの用の木型を、情報学部 情報デザイン学科 4年 舟橋研究室 木村日菜美さんと、同学科 4年 吉田研究室 足立菖さんがデザイン・製作しました。

非常勤講師の深谷里奈先生の呼びかけに賛同した木村さんが木型のデザインと製作を担当し、足立さんがプロジェクトの記録写真撮影を担当しました。

参加者の声を参考に製作した合計7種の木型は、今年度の「田んぼの楽校」で使用される予定です。

市原慶梧さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

第10回機素潤滑設計生産国際会議（ICMDT 2025）にて研究発表を行いました

4月22日（火）～25日（金）にアクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）で、第10回機素潤滑設計生産国際会議（ICMDT2025）が開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 市原慶梧さんが研究発表を行いました。

市原さんの研究は、真空用デバイスの潤滑剤・導電剤として期待されているイオン液体（室温で液体を維持する溶融塩）の導電性を向上させるために導電性高分子をイオン液体内に分散させた場合の特性評価に関するものであり、発表はポスターにて行いました。この研究では東京大学・生産技術研究所の岡部先生との共同研究であると同時に、工学部 機械工学科 宮本潤示准教授とも連携して行いました。また、この発表では工学部 機械工学科 2024年度卒業生 岡滉大さんが連名となっています。

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

タイトル：Electrical and Tribological Properties of Ionic Liquid with Polypyrrole Particles
発表者：Kego Ichihara, Kodai Oka, Junji Miyamoto, Kei Somaya, Takao Okabe

---

青木 陸哉さん、尾崎 智昭さん（総合情報学科）

日本最大級ピッチイベント「ROCKET PITCH NIGHT 2025 ULTIMATE」に登壇しました


▲（左から）青木さん、尾崎さん

5月7日（水）、虎ノ門ヒルズ森タワー5階 虎ノ門ヒルズフォーラムにて開催された、日本最大級の創業・成長期ピッチイベント「ROCKET PITCH NIGHT 2025 ULTIMATE」に、情報学部 総合情報学科 3年 中村研究室 青木 陸哉さんと尾崎 智昭さんが登壇しました。

2019年の開始以来、累計710組以上の起業家と8,700名を超える観客を動員してきた注目のピッチイベントに、本学の学生2名が挑戦しました。3分間という限られた時間の中で、事業企画の魅力を伝え、投資家やビジネスパートナーとのネットワーキングを目指す本イベントの様子は、虎ノ門ヒルズから同時通訳付きで世界へオンライン発信されました。今回は、史上過去最多となる225組を超える応募の中から、90組が登壇しました。

青木さんは、AIを活用してパーソナライズされた旅をデザインする伴走型旅行コンシェルジュサービス「OneTrip」を発表。一方、尾崎さんは、感情の定量化を通じてコミュニケーションの円滑化を図る革新的なアイデアを披露しました。

プログラムへのリンク
https://venturecafetokyo.org/event/rocket-pitch-night-2025-ultimate/

Innovation AI LAB

「伊勢湾台風65年市民防災の集い」でドローンの操作体験会を行いました



2024年9月28日（土）、大同大学で開催された「伊勢湾台風65年市民防災の集い」で、Innovation AI LABの学生が災害時に使用されるドローンの実演と操作体験を行いました。当日は、たくさんの市民の方々に参加をしていただきドローンが災害時に使用される魅力や操縦方法を体験してもらいました。

また、操縦体験とは別に、実際に災害現場や測量に使用されるドローンのカメラ映像をリアルタイムで見ることができる実演会も行いました。

担当したInnovation AI LABの学生は、「ドローンは近くて遠い存在のため、普段なかなか操縦をすることがありません。しかし、このような体験会を行うことによって少しでもドローンの魅力を知り、興味を持っていただけたら嬉しいです。」と語っていました。

ロボット研究部

第33回BRAVEで 準優勝、4位、アイドル賞を受賞しました

2024年9月23日（月・祝）、第33回BRAVEで、ロボット研究部の工学部 機械システム工学科 3年 三宅正也さんが準優勝しました。また、同学科 2年 小柳陸さんが4位入賞、同学科 3年 森宥翔さんがアイドル賞を受賞しました。BRAVEとは、凹凸のあるフィールド上で複数のロボットがバトルロイヤル形式で戦う無線ロボット競技です。ロボットは授業やロボット研究部で学んだCADで設計を行い、ロボット工房にあるNC工作機を用いて部品レベルから製作しました。本学のロボット研究部はこの大会の常連で、毎回複数名がエントリーし、これまでに数々の賞を獲得してきました。

この競技会は回を重ねるごとにレベルが上がってきていますが、ロボット研究部の上級生はそのレベルアップに良い刺激を受けながらうまく対応できています。また、今回初めてロボット製作をした一年生は大会の独特な雰囲気を経験することができ、部員全員のモチベーションアップに繋がる実りのある大会になりました。


▲三宅さんの受賞の様子


▲小柳さんの受賞の様子


▲森さんの受賞の様子

Innovation AI LAB

WRS Harsh Environment Drone Challenge 2nd PLACEを受賞しました!


▲出場メンバー

2024年10月3日（木）～6日（日）、福島県の福島ロボットテストフィールドで開催された「WRS（World Robot Summit）・過酷環境チャレンジ・Harsh Environment Drone Challenge・プレ大会」にInnovation AI LABの学生が出場しました。メンバーは学科を問わず、機械システム学科、情報システム学科、情報デザイン学科の学生7名で構成されました。

ハードウェア担当： M1 白山太一さん（大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 1年）、B3 加藤彰永さん（工学部 機械システム工学科）

ソフトウェア担当： B3 畑中健汰さん（情報学部 情報システム学科）、B3 増元智己さん、海山速人さん（工学部 機械システム工学科）、B2 齊藤巧さん（情報学部 情報システム学科）、B2 東江竜弥さん（工学部 機械システム工学科）

この大会では大規模災害を想定した、被災状況の調査や被災者に対する救援物資の供給などがテーマになっています。実際にドローンからドローンを空中投下するのは世界的にも数が少なく貴重な映像になります。

ドローンの空中投下映像はこちら
https://youtu.be/LnLmNu9Fgkk

和太鼓部

『あいち県民の日記念イベント』にて和太鼓部がオープニングパフォーマンスを行いました

2024年11月27日（水）、Niterra日本特殊陶業市民会館ビレッジホールで開催された『あいち県民の日記念イベント』で、本学の和太鼓部がオープニングパフォーマンスを行いました。

このイベントでは、田村淳さんによる基調講演や、著名人によるパネルディスカッションも行われ、愛知の魅力について語られました。30分で力強い和太鼓の演奏を3曲行い、終了後には観客から「いいぞ!」「かっこよかったぞ!」といった声援もいただきました。今回の演奏には和太鼓部OBも加わり、創設当時に作った曲を披露しました。今後も精力的に演奏活動を行っていきます。


▲和太鼓部のメンバー

ロボット研究部

KHK杯2024で優勝しました

2024年10月5日（土）、「KHK杯2024」で、ロボット研究部の情報学部 情報システム学科 4年 行方祐介さんが見事優勝しました。

今回のKHK杯をはじめ数々の大会での優勝経験がある行方さんは、これまでに培った製作技術を基に改良を重ねたロボットをハイレベルな操縦技術を駆使して対戦相手を次々に駆逐して順調に勝ち上がりました。準決勝では強豪選手のロボットを真っ二つに破壊してしまうという圧倒的な強さを見せつけ、勢いのまま決勝に臨み、見事に二連覇を達成しました。この競技会での二連覇達成という偉業は、ロボット研究部の部活動に対するモチベーションをおおいに高めるものとなり、これからも部員同士で切磋琢磨して技術を向上させていきたいと思える大会になりました。


▲優勝した行方さん

本学学生の作品展示イベント「X4 DESIGN」を行いました!



今年度も本学学生の作品およびパフォーマンスを各地で発表しました。「X4 DESIGN」は、建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン分野、3Dデザイン分野の学生による作品展示・イベントです。卒業制作を含む本学学生の作品およびパフォーマンスを各地で発表しました。

図書館企画展示を行いました

大同大学図書館では企画展示を行っています。「技術と人道支援」を身をもって実践された中村哲医師の生涯と業績を幅広く紹介する企画展示や、新しい春に胸膨らませている新入生のみなさんに向けて大学生活を応援する展示を行いました。




▲展示の様子

情報誌「SCENE 116」にA棟学生ホールが掲載されました

愛知株式会社が発行する、製品納入事例をもとに施設の情報や関連する動向を紹介する情報誌「SCENE」に、A棟1階学生ホールの改修に関する記事が掲載されました。記事では、学生の大学生活充実を目的として、どのようにホールが構成されているかなど書かれています。



詳細はこちらから
https://www.axona-aichi.com/digitalbook/scene/scene116/#page=1

大同大学奨励賞表彰式を行いました!


▲表彰式の様子

大同大学奨励賞表彰式が2024年12月16日（月）、2025年1月7日（火）、3月10日（月）に執り行われました。

2024年12月16日（月）には、X棟のラウンジ・LCなど、各スペースの使用用途の情報伝達が不十分な問題をインフォメーションボードデザインによって解決した功績により、「インフォメーションボードデザインチーム イレブン」のメンバーである情報学部 情報デザイン学科 3年 神田 直季さん、加藤 碧さん、木村 日菜美さん、工藤 清流さん、小宮 佑斗さん、杉 明香里さん、竹本 有沙さん、羽田 翔さん、大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 1年 白山 太一さんに奨励賞が授与されました。

1月7日（火）には、JCD（一般社団法人 日本商環境デザイン協会）中部支部主催の第4回「中部空間賞・学生部門」で、建築学部 建築学科 建築専攻 4年 中村來珠さんが最優秀賞と金賞、特別審査員のナノメートルアーキテクチャー賞の3賞を、同専攻 4年 小木曽力斗さんが金賞を受賞し、大学の名誉を高めたとして大同大学奨励賞が授与されました。

3月10日（月）には、公益社団法人 商業施設技術団体連合会が主催する第22回『主張する「みせ」学生デザインコンペ』で、建築学部 建築学科 建築専攻 船橋研究室 4年 小木曽力斗さんが、349件の応募の中から奨励賞を受賞するに至り、大学の名誉を高めたとして大同大学奨励賞が授与されました。

大同大学男子ハンドボール部OBの原田一沙さんと佐藤快さんが現役を引退します

男子ハンドボール部OBで、現在はリーグHの大同特殊鋼 Phenix TOKAIに所属する原田一沙さん（情報学部 総合情報学科 2017年卒業）と佐藤快さん（同学科 2019年卒業）が2024-25シーズンをもって引退することになりました。

原田さんは在学中に本学男子ハンドボール部主将を務め、チームを創部以来初のインカレ3位に導いたり、自身はU24日本代表として世界学生選手権に出場するなど輝かしい実績を収めました。佐藤さんも在学中に主将を務め、強豪ひしめく東海学生ハンドボール連盟の2018年春季リーグでチームを優勝に導き、自身は最優秀選手に選出されました。5月17日（土）は大同特殊鋼 Phenix TOKAIの東海市民体育館でホーム最終戦が行われ、試合後には引退セレモニーが執り行われました。

大同特殊鋼 Phenix TOKAI
原田さん、佐藤さんの引退のお知らせはこちら
https://www.daido-sports.jp/phenix/topics/250513_member-2/

ハンドボール男子日本代表監督が、本学で大学生を直接指導しました

3月6日（木）、7日（金）の2日間、ハンドボール男子日本代表監督であるトニ・ジローナ氏が本学で、ハンドボール東海学連選抜の選手を対象に練習会を開催し、直接指導しました。この取り組みは日本ハンドボール協会の主催で、2028年のロサンゼルス五輪に向けた男子大学年代の強化・育成・発掘のトレーニングとして実施されました。日本代表の監督が大学生を直接指導することは史上初めてです。

本学男子ハンドボール部からは東海学連選抜に選ばれている選手の内、以下の5名が参加しました。

岡田広規さん、鈴木海斗さん、河合優人さん（情報学部 総合情報学科 4年）
酒井優希さん（情報学部 総合情報学科 3年）
大野凌さん（建築学部 建築学科 3年）



ジローナ監督は試合の映像を選手に見せながら、「相手へ積極的にプレッシャーをかけながら守備をし主導権を握ることが重要」と語り、練習を行いました。張り詰めた緊張感の中で、少しでも成長しようと熱心に監督の話を聞いている選手たちの様子が伺えました。

建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻

公益財団法人日本建築家協会の広報誌に大同大学の特集が掲載されました

公益財団法人日本建築家協会の広報誌『JIA MAGAZINE』に大同大学の特集ページが掲載されました。建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 武藤隆教授が執筆代表者で、建築学部についてや、生きた教材としての新校舎X（クロス）棟について、写真とともに紹介しています。後半では、建築専攻とインテリアデザイン専攻の各研究室について、研究内容や学生の学びについてまとめています。

桐山研究室（情報デザイン学科）

卒業生トークイベントを開催しました

2024年10月21日（月）、情報学部 情報デザイン学科 桐山研究室主催で、大同大学の卒業生を招きトークイベントを開催しました。このイベントは、吉田建設株式会社と桐山研究室が産学連携事業の一環で、就活イベント『Pocket Adventure』の企画の一部です。情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 2022年度卒業生 嶋田菜帆さんと、工学部 建築学科 土木・環境専攻（現：建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻）2023年度卒業生 吉川誠剛さんに登壇していただきました。

トークイベントでは、来場した学生がその場で考えた質問などを投げかけ、一つひとつ回答していただきました。「就活に強いガクチカは?」や「自分の長所をどのように気付いたのか?」「就活で後悔していることは?」など、学生ならではの質問をしていました。卒業生2名は「やり遂げたことの大きさよりも乗り越えた過程がアピールになる」、「就活ネタを作るために感受性豊かでいることを意識する」などと答え、卒業生と在校生ならではの和気あいあいとした雰囲気でした。



舟橋研究室（情報デザイン学科）

大同大学公式マスコットキャラクター投票のプレゼントグッズをデザインしました!

2024年10月5日（土）、大同大学オープンキャンパスで、情報学部 情報デザイン学科 3年 梶井康生さん、小嶌啓太さん、小宮佑斗さん、服部福丸さんが「公式マスコットキャラクター投票」の投票者（高校生）に進呈するお菓子入り巾着袋をデザインしました。4名はオープンキャンパス当日の投票所スタッフも務め、来場者に案内するなど投票率向上に貢献しました。



大同大学公式マスコットキャラクター「だぼっと」誕生しました!



大同大学公式マスコットキャラクターは、2024年夏に本学在学生、卒業生、教職員を対象に原案の募集を行いました。応募作品49作の中から最終選考に3作品を選出し、学生、教職員、オープンキャンパス来校の高校生による投票を行いました。選定された原案をもとにブラッシュアップを行い、この度公式マスコットキャラクター「だぼっと」が誕生しました!

大同大学は実学教育を理念に掲げ、社会で即戦力となる人材を育成しています。実習で使う道具はもちろん、産業界の夢と希望を背中の箱に詰め、大同大学をPRしていきます!

特設ページはこちら
https://daido-chara.jp/

冨永研究室（情報デザイン学科）

「南区民まつり」のアフタービデオを制作しました

2024年11月17日（日）に道徳公園、道徳小学校、大江中学校一帯で南区民まつりが開催され、南区との連携事業の一環として、情報学部 情報デザイン学科 冨永研究室所属の3年生5名が、毎年開催される南区民まつりをPRするための映像撮影に取り組みました。

学生たちは事前に担当者から当日のスケジュールやイベント内容の説明を受けた後、打ち合わせを重ねて撮影に臨み、当日は2クルーにわかれて撮影場所や撮影時間などを調整し、縦横無尽に会場を駆け巡りました。

撮影した映像は富永慎一教授の指導を受けながら学生が編集し、YouTubeで公開されました。

今回の撮影・編集作業は、卒業研究に向けて、事前準備、打ち合わせ、機材の取り扱い、撮影、編集作業を体験することができ、よい経験ができたようです。

公開されている動画は、「南区民まつり」の様子が凝縮された作品となっています。

ぜひ、下記URLより作品をご覧ください。



▲学生の様子

「南区民まつり」の
アフタームービーはこちら
https://youtu.be/FGp0CaUDQKk

「南区役所」のサイトはこちら
https://www.city.nagoya.jp/minami/page/0000177341.html

研究・社会連携推進センター

第24回におい研究交流会を開催しました



▲研究会の様子

2月14日（金）、本学で第24回におい研究交流会を開催しました。

当日は、70名を超える企業関係者や他大学の教員、学生の方々にご参加いただき、本学の教職員・学生を含む総勢140名の参加者が集まりました。特別講演として、獨協医科大学看護学部の板倉朋世教授に「医療現場のにおいの実態ー現場の状況と求められる対策ー」をテーマに講演いただきました。講演では、医療現場の現状や課題、求められる対策について詳しくご説明いただき、講演後には活発な質疑応答が行われました。特別講演のほか、メイン会場では、今年度におい・かおり研究センターで実施した研究について、10題の学生発表が行われました。

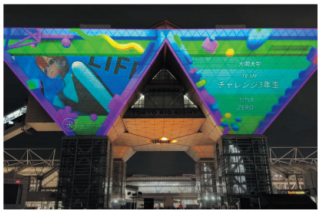
また、毎年開催されるかおりコンテストでは、今年度のテーマ「春の訪れを告げる梅の香り」のもと、2年生および3年生が調香したかおりのコンセプトを発表しました。その後、ポスター会場では、10題の研究に関して活発な議論が交わされ、コンテスト会場では、参加者が学生の香り作品を嗅いで、テーマに合ったかおりに投票が行われました。研究会終了後には情報交換会（交流会）が開催され、かおりコンテストの表彰式のほか、企業関係者や大学関係者、学生との交流が盛況に行われました。

情報デザイン学科

東京プロジェクションマッピングアワードに出展しました

2024年11月16日（土）、東京ビックサイトで開催された、東京国際プロジェクションマッピングアワードに、情報学部 情報デザイン学科 原田研究室、同学科 押山研究室 3年 大井涼右さん、赤松優太さん、山田創太さん、リン・イーさん、濱田泰誠さん、田中翔大さん、杉浦せらさん、塚田愛華さん、久納龍輝さん、河合侑汰さん、樋口子龍さんが作品を出展しました。

東京国際プロジェクションマッピングアワードはイベントを兼ねたコンテストで、学生らは「チャレンジ3年生」というチーム名で作品を制作しました。作品タイトルは「ZERO」でゲームの要素を通して人生のやり直しができない大切さを描いた作品です。挑戦や挫折、復活を経て成長していく姿を通じて、人間の持つ不屈の精神を表現しました。当日は多くの来場者が作品に見入っていました。





▲制作した作品

情報デザイン学科

椅子の展覧会「The Chairs ver.16」に出展しました



▲（左から）梶井さん、神田さん、服部さん、羽田さん、大谷さん、小嶌さん

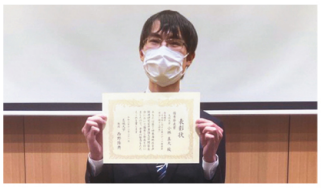
2024年12月にナディアパークで開催された「The Chairs ver.16」に、情報学部 情報デザイン学科 佐々木研究室 3年 大谷明弘さん、同学科 舟橋研究室 3年 梶井康生さん、神田直季さん、小嶌啓太さん、羽田翔さんの展覧会です。今回の展覧会では、DMや会場の横断幕も服部福丸さんがデザインしました。

情報システム学科

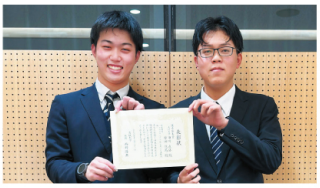
第7回東海地区音声関連研究室卒業論文中間発表会にて優秀発表賞を受賞しました

2024年12月21日（土）に名城大学で開催された「第7回東海地区音声関連研究室卒業論文中間発表会」で、情報学部 情報システム学科 4年 柘植研究室 小林真大さん、同学科 宮島研究室 市川直弥さん、原田悠馬さんが優秀発表賞を受賞しました。

小林さんは、日本語に対する異メディア間著者照合に関する研究を、市川さん、原田さんは、生成AIを用いた車種認識に関する研究について発表しました。本発表会では、愛知工業大学、愛知県立大学、愛知工科大学、愛知産業大学、中部大学、名城大学、大同大学の卒業研究生77名が研究発表を行いました。なお、来年度の発表会は本学にて開催予定です。



▲受賞した小林さん



▲受賞した原田さん、市川さん

建築学科 都市空間インフラ専攻

2024年度授業成果展示会を開催しました

3月25日（火）～27日（木）、本学X棟1階で建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻（旧：工学部 建築学科 土木・環境専攻）の授業成果展示会を行いました。2年生後期のCAD演習やランドスケープ設計で作った平面図や模型を展示しました。受講した学生は、実務で公園を設計されている先生等に指導を受け、作品を完成させました。

3年生前期のまちづくりデザイン実習では、ある地方都市の駅前地区を開発する案を学生がそれぞれ提案しました。実際に想定される事業収支、減歩率等の計算をして、実現可能性も考慮した提案になっています。この授業は公務員採用試験でのプレゼン選考でも高評価を得ている内容で、就職後に即戦力で働ける人材を育てています。



▲展示会場の様子



▲展示作品

情報デザイン学科

舞台公演「鶴・舞」にて音響、記録撮影を行いました



3月7日（金）、日東学術振興財団助成の舞台公演「鶴・舞」が市民ギャラリー矢田第1展示室で行われました。

音響およびオペレートを情報学部 情報デザイン学科 押山研究室 市村奨悟さん、朝長喜平さん、藪谷一矢さんが、記録撮影を同学科 冨永研究室 寺本早希さん、仲瀬直志さん、森尾颯汰さん、山田遊真さん、西山直希さん、伊藤蒼人さんが行いました。

来場された方々は、ダンス、映像、音楽が融合された優美な舞台に引き込まれていました。



卒業生インタビュー
Graduates of Daido University



東邦ガスネットワーク株式会社
森岡 陸
2020年3月
工学部 総合機械工学科卒業
（現：機械システム工学科）
2025年6月現在
東邦ガスネットワーク 入社6年目

企業 DATA

東邦ガスネットワーク株式会社
〒456-0004
名古屋市熱田区桜田町19番18号

設　　立　2021年4月1日
　　（事業開始 2022年4月1日）
代 表 者　柴田 喜充
資 本 金　30億円
従業員数　1,003人
事業内容　一般ガス導管事業 など

―― 現在勤務している企業を紹介してください。

東邦ガスネットワークは法令に基づくガス事業の中立性確保と経営効率化を目的に、2022年4月に一般ガス導管事業を東邦ガスと分社化し、「東邦ガスネットワーク株式会社」となりました。私は現在、出向という形で東邦ガスネットワークに勤務しています。

東邦ガスネットワークは、地域の暮らしを支える都市ガスを安全・安定的に届けるため、さまざまな取り組みを行っています。老朽化対策や耐震化工事を進め、導管設備の安全性を確保するとともに、定期的な設備点検や緊急時の対応体制を整え、保安管理を徹底しています。また、地震や台風などの自然災害に備えたリスク対策や復旧体制の強化にも注力しており、万一の際にも速やかな対応が可能です。さらに、ガスインフラの高度化を目指し、デジタル技術を取り入れた効率的な運営を推進しています。

―― 現在従事している仕事内容を教えてください。

現在はガスを使用していただいているお客様のガス設備の維持管理、定期点検、ガス漏えい検査をしています。ですが、私たちが点検を行うのは一般のお客様ではなく、工場や商業施設、病院などの大口のお客様が対象です。

ガス事業法に基づき点検を行っています。

―― 現在のお仕事におけるやりがいを教えて下さい。

仕事をするための社内認定をクリアしていくことにやりがいを感じます。



ガス設備を扱う上で基礎知識や基礎技能が必須となります。そのため、初めの数年はいくつかの社内認定を受けて合格していくことで自分の知識もスキルも上がり成長とやりがいを感じることができます。

―― その企業に就職したきっかけ、経緯を教えてください。

きっかけは2つあります。1つ目は研究室に求人が来ていてそれをたまたま見たことです。他の同級生はあまり見ていなかったようで、受ける人が僕を合わせて2人しかいなかったことで合格できたのかなと思っています。

2つ目は父親がガスに関する仕事しており、普段から馴染みのある業種だったことです。父親の勧めもあり就職しました。

―― 大学での学びはどのように生きていますか?

大学時代は、周囲があまり関心を持たなかった卒論テーマや進路を選び、自分で調べ、考えながら一人で取り組むことが多くありました。工業高校出身の私は、普通科出身の同級生についていけるかという不安がありました。だからこそ周囲の目にとらわれず、自らの意思で学習支援センターを活用することを決めました。正解がない中でも粘り強く試行錯誤を重ねる力や、自分で判断して行動する力は、今の業務にもそのまま活きています。現場ではマニュアル通りにいかない場面も多く、自分で状況を見て判断し行動する力が求められます。大学時代の経験が、そうした現場対応力や責任感の土台になっていると感じています。

―― これからの目標を教えて下さい。

周りには高校卒業者が多いため、大学卒業者である私は他の人よりも求められるレベルが高くなっています。そのため、これからの目標は常に求められるレベルに応えていくことです。与えられた仕事だけではなく、新しいことへの挑戦や変化を起こすことが必要で、そのためには業務内容を深く理解し、普段から変化の意識を持つことが大切だと思っています。

―― 在学生に一言お願いします。

大学生活の4年間は、本当にかけがえのない時間です。私にとっても大学時代が一番楽しく、今でも「また戻れたら」と思うほど大切な時間でした。私が伝えたいのは、「やりたいこと」に挑戦してほしいということです。

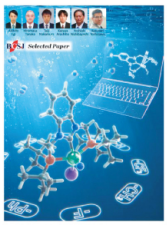
ここで言う「やりたいこと」は、快楽や気楽さではなく、興味や憧れ、熱量を感じるものです。

「そんなもの、特にないな…」と思う人もいるかもしれません。でも大丈夫です。見つける方法があります。それは「できる」を増やしていくことです。

気になったことがあれば、行ってみる・試してみるといった小さな行動で構いません。その一歩が「できた」という感覚につながり、自信になります。最初は面倒に感じたり、自分には無理だと思うかもしれませんが、そんなことはありません。大切なのは、まず一歩を踏み出してみることです。

田中宏昌教授（教養部）

日本化学会誌に掲載された研究論文がSelected Paperに選ばれ表紙を飾りました



教養部 化学教室 田中宏昌教授の研究論文が、日本化学会の国際論文誌“Bulletin of the Chemical Society of Japan”に掲載され、編集部の選ぶ優秀論文（Selected Paper）として内表紙を飾りました。この成果は、東京大学および九州大学との共同研究によるものです。

内容は、「コンピュータを活用した、超高活性アンモニア生成触媒の設計」です。共同研究グループは、窒素ガスと水を用いたアンモニア合成反応（窒素固定反応）において、触媒活性の世界最高記録を保持しています。本研究では、触媒活性のさらなる向上を目指し、改良型触媒の計算スクリーニングを行いました。この研究において、田中教授は触媒設計と計算データの分析を担当しました。

論文のタイトルなどの情報は以下の通りです。

雑誌名：Bulletin of the Chemical Society of Japan
論文タイトル：Computational screening of PCP-type pincer ligands for Mo-catalyzed nitrogen fixation
著者：Akihito Egi, Hiromasa Tanaka, Taiji Nakamura, Kazuya Arashiba, Yoshiaki Nishibayashi, Kazunari Yoshizawa
DOI 番号：https://doi.org/10.1093/bulcsj/uoae041

橋口宏衛講師（機械システム工学科）

情報誌『名古屋港』に空モビリティについての記事（第4・5・6回）が掲載されました

情報誌『名古屋港』に、工学部 機械システム工学科 橋口宏衛講師による連載記事「空モビリティの時代がやってくる」が掲載されました。『名古屋港』は国際貿易港として成長著しい名古屋港の魅力を伝えるために、名古屋港利用促進協議会によって発行されています。

橋口講師は、これまでも同誌にドローンについての記事を連載しておりましたが、2024年度はドローンも含めた「空飛ぶクルマ」を総称した「空モビリティ」について様々な活用事例を紹介しています。

橋口講師の連載は全6回で、第4回の記事では「災害対応ドローン」と題して、災害発生時におけるドローン活動の問題点について解説しています。

2025年1月20日（月）、第5回の記事では「過酷環境ドローンチャレンジ（前編）」と題して、大規模災害の対応を想定したドローンの競技会を紹介しています。

2025年3月20日（木・祝）、第6回の記事では「過酷環境ドローンチャレンジ（後編）と空モビリティが活躍する未来を願って」と題して、前号に続いてドローン競技会『過酷環境ドローンチャレンジ（HEDC）』についての紹介と、埼玉県八潮市の陥没事故で調査を行った「狭小空間点検ドローン」や、知多半島師崎港の港湾点検を行った「水空合体ドローン」の活躍を紹介しています。

名古屋港利用促進協議会のHPはこちら
https://www.nagoyaportpromotion.jp/index.html

前田安郭教授（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

The 75th WORLD FOUNDRY CONGRESSでPlenary Speakerを務めました

2024年10月25日（金）～30日（水）にThe 75th WORLD FOUNDRY CONGRESSが中国四川省の徳陽市にて開催されました。大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻長 前田安郭教授がPlenary Speakerとして、“Cooling Behavior by Water Spray and Air-Blow on Green Sand with High-Temperature”の講演を行いました。



▲講演する前田教授

75th WFCのサイトはこちら
https://www.75wfc.com/

前田研究室のサイトはこちら
https://yasuhiro-maeda.com/

船橋仁奈准教授（建築学科 建築／インテリア専攻）

インタビュー記事が掲載されました

2024年11月26日（火）、建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 船橋仁奈准教授（現：教授）のインタビュー記事が「RASIK LIFE」サイトに掲載されました。船橋准教授は「コンテクストからインテリアを考える」と題し、自身の建築を学ぶことになったきっかけや、インテリアデザインで意識していることなどについて語っています。ぜひご覧ください。

インタビュー記事はこちら
コンテクストからインテリアを考える｜大同大学 建築学部 船橋仁奈准教授にインタビュー!

RASIKのサイトはこちら
https://rasik.style

RASIK LIFEのサイトはこちら
https://rasik.style/blogs/bed

武藤隆教授（建築学科 建築専攻／インテリア専攻）

日本建築学会の会誌である「建築雑誌」に論考が掲載されました

日本建築学会が発行する会誌「建築雑誌」に、建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 武藤隆教授の論考が掲載されました。

本誌は、「建築雑誌」の2025年4月号「REgionalism in 名古屋」という特集号で、特集では、「大名古屋都市計画（1924）」「大中京圏再建の構想（1945）」「名古屋防災都市建設計画（1960）」と都市計画の優等生であり続けた近現代名古屋という巨大な「地方都市」とその「地方都市圏」について、日常生活の「接ぎ木」のあり方について再考しようとするもので、武藤教授は、「久屋大通公園の持続性、久屋大通界隈の変遷」と題して寄稿した論考が掲載されました。

日本建築学会「建築雑誌」はこちら
http://jabs.aij.or.jp/

松木孝文教授（教養部）、髙柳伸一教授（建築学科 建築／インテリア専攻）、鷲見哲也教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）、岡田心教授（情報デザイン学科）

南生涯学習センター主催による「大同大学連携講座」の講師を務めました

南生涯学習センター主催の大同大学連携講座「様々な歴史と生活の関わり」を主テーマとして、2024年11月7日（木）より4週にわたり本学で開催されました。

初回は、「歴史を楽しむ方法 ～愛知県の産業・文化を例に～」のタイトルで教養部 人文社会教室 松木孝文教授が講師を務めました。第2回は、「生活の中に見られる建築史的な要素」のタイトルで建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 髙柳伸一教授が講師を務めました。第3回は、「歴史と地域特性から学ぶ防災」のタイトルで建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻 鷲見哲也教授が講師を務めました。最終回は、「生活にとけこむ伝統工芸とデザイン」のタイトルで情報学部 情報デザイン学科 岡田心教授が講師を務めました。


▲講演する松木教授


▲講演する髙柳教授


▲講演する鷲見教授


▲講演する岡田教授

山田靖教授（電気電子工学科）

専門図書の執筆をしました

工学部 電気電子工学科 山田靖教授が、R&D支援センターの専門図書「パワーデバイスの最新開発動向と高温対策および利用技術」の執筆をしました。

山田教授が執筆したのは、第5章第4節の「次世代パワー半導体高温動作用接合技術」です。高温動作の狙いと接合技術の概要に続き、熱特性、信頼性、特性評価法を説明し、最後に高温動作モジュールについて述べました。

吹田和嗣教授（機械システム工学科）

RFA規格に基づくロボット・建物設備連携と標準化に関わる成果が報告されました

ロボットを導入しやすい環境、ロボットフレンドリー（ロボフレ）環境を実現するため2020年度から「革新的ロボット研究開発等基盤構築事業」等の予算事業が進められています。ロボフレ環境の実現・拡大に向けて、搬送・清掃・警備などの機能を持つロボットがオフィスビル等の施設内で円滑に活動するための環境を構築を進めています。

工学部 機械システム工学科 吹田和嗣教授はRFA規格に基づくロボット・建物設備連携と標準化の推進（採択先：株式会社Octa Robotics）からの委託研究を受け、これまでの研究開発成果や策定した規格をより発展させる技術検証や、ロボット導入のユースケース拡大に繋がる新たな標準化領域の検証、ロボット導入による利便性や経済性の向上に資する環境を開発しています。移動ロボットに活用される共有マーカーの研究開発を学内の有志（大学院 情報学研究科 情報学専攻 1年 白山太一さん、情報学部 情報システム学科 2年 齋藤巧さん、3年 畑中健汰さん、工学部 機械システム工学科 3年 増元智己さん、中本子龍さん、竹林弘翔さん）と進めています。今回、株式会社Octa Roboticsからその研究成果が報告されました。今後も標準マーカの認識性の向上、リアルな環境でのロバスト性評価の研究を進めていく予定です。

詳細はこちら
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000108850.html

関連投稿はこちら
https://www.daido-news.jp/du_news/teacher/6240.html

小島一宏教授（情報デザイン学科）

「第46回ヨコハマ映画祭」の表彰式で司会を務めました

2月2日（日）、映画ファンのための熱いまつり「第46回ヨコハマ映画祭」が催され、情報学部 情報デザイン学科 小島一宏教授が表彰式の司会を務めました。

小島教授は2015年2月の第36回から毎年、司会の大役を務めています。今年の表彰式には、主演男優賞の役所広司さんと仲野太賀さん、主演女優賞の杉咲花さん、助演男優賞の池松壮亮さん、助演女優賞の三吉彩花さん、監督賞の入江悠さん、撮影賞の浜田毅さんら豪華な顔ぶれが揃い、満員の横浜・関内ホールは華やかで楽しい雰囲気に包まれました。受賞者の全員（今年は14人）に、次々とインタビューを行った小島教授。ステージで役所さんに「名古屋から（来たの）？」と声を掛けられ、感激したそうです。この映画祭から一気に飛躍する俳優も多く、今年の最優秀新人賞に輝いた越山敬達さん、出口夏希さん、齋藤潤さんの今後の活躍も楽しみです！



▲後列左から2人目が小島先生
©ヨコハマ映画祭実行委員会


▲仲野太賀さん、役所広司さんと小島先生

押山晶子准教授（情報デザイン学科）

劇団Theater BamBoo本公演「ハッピーキッチン」作曲を担当しました

3月8日（土）、9日（日）ミュージカル劇団Theater BamBoo（テアトルバンブー）第11回本公演「ハッピーキッチン」が名古屋市青少年文化センター（アートピア）にて、全3公演1000名を超えるお客様を迎え終演しました。都会から少しはなれたところにある、フレンチレストラン「ランコントル」の閉店の危機! スタッフたちの日常を描いたコメディミュージカル。全曲オリジナル、バンド生演奏で行われ、情報学部 情報デザイン学科 押山晶子准教授が作曲を担当しました。





▲本番の様子

服部佳晋教授、小島崇教授（電気電子工学科）

車載システムEMCコンソーシアム共同実験会を開催しました

2月27日（木）、車載システムEMCコンソーシアム 共同実験会を開催し、本学の工学部 電気電子工学科 服部佳晋教授、小島崇教授が参加しています。

昨年、名古屋工業大学と大同大学が連携して、車載EMC※1コンソーシアムを立ち上げました。このコンソーシアムは、車載機器のEMC課題に対する技術調査を大学、企業と共同で実施し、EMC設計システムの構築を目指すことを目的としており、現在、28の企業が参画しています。

今回、本学で作製した実車のPHEV※2のパワエレシステムを模擬したEMC評価ベンチを用い、伝導ノイズ測定、部品の高周波インピーダンス測定に関する実験会を開催しました。大学、企業合わせて25名が参加し、活発な意見交換がされました。

※1 ElectroMagnetic Compatibility:
電子機器が電磁波による干渉を受けずに動作する性能のこと
※2 Plug-in Hybrid Electric Vehicle


▲実験会の様子

中島貴光教授（建築学科 建築専攻／インテリア専攻）

「世界劇場会議国際フォーラム2025 in ちりゅう」の副実行委員長を務めました



2月26日（水）、27日（木）、「世界劇場会議国際フォーラム2025 in ちりゅう」が知立市文化会館パティオ池鯉鮒にて開催され、建築学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 中島貴光教授が副実行委員長を務めました。

このフォーラムは「劇場100年時代は来るのか Part2 ～地域劇場が生き残るために～」と題し、劇場の長寿命化にスポットをあて、前年度、長久手市 文化の家で開催された「劇場100年時代は来るのか」からテーマを引き継ぎ、多様な価値観、生活様式があふれる現代社会において、どのようにその存在価値を示していくか、地域劇場の持続可能性について考えることを目的に開催されました。パティオ池鯉鮒を中心として、これからの劇場のソフトとハード、それぞれのあり方について様々な視点より活発な議論を行い、盛況のうちに幕を閉じました。


▲フォーラムの様子

副学長コラム

『棚橋先生の人となりが伝わるコラムをお願いします』と入試・広報室から電話がきた。望むところである、DAIDO CAMPUSの歴史に残る楽しいコラムにするぞ！まずはメモしてみよう！

棚橋 秀行 教授 56歳

1991年	岐阜大学工学部 土木工学科 卒業
1996年	信州大学 工学部 社会開発工学科 着任
2000年	大同大学 建設工学科 土木工学専攻 着任
2020年	大同大学 副学長 就任

▲ライブハウスでの音楽活動です
大曲ボヘミアンラプソディをピアノ一台でやってみました。

中学の運動会、応援合戦

きっと他の団は硬派な学ラン応援に終始するだろう、と予測した私は応援団長に提案。

応援の途中に、お祭りみこしが突然現れるんだ。そのみこしの中から現れた謎の中学生神主が、デタラメな祝詞を読み上げ、赤団の必勝祈願のお祓いをすれば、もうドッカーンと…

棚橋、お前正気か?!

と応援団員には言われたが、これを聞いていた当時の担任の先生は寺の住職。それはそれはお気に入られ実行することに。そして迎えた本番、坊主頭の中学生エセ神主のやりたい放題に審査員席の来賓たちは想定を越える大爆笑！結果的にぶっちぎりの優勝…その神主の正体こそ棚橋。

中学の夏休みの自由研究 ざわ…黒歴史

理科で習った水上置換を悪用し、夏休みの間中、風呂で例のあの気体を1Lビンにたっぷり集めた。夏休み最終日、満を持してフタを開け着火しようとしたが、あまりの異臭に家庭内がパニック、父親激怒の黒歴史。

高校での自主製作映画 ざわ…黒歴史

棚橋が脚本・監督。ラメ紫のずた袋を頭からかぶり、マントを羽織った異常な人物「スナイパー三稜」がJR大垣駅周辺を自転車で走り回る、わけのわからない映画「スターウォーズ」。そのあまりのくだらなさに高校の文化祭を爆笑のるつぼに叩き落した。しかしスタッフ同ロケ中警察に何度も職務質問されたあげく、長期間にわたった撮影で進学校でありながら大きく成績を落とした黒歴史。

漫画研究会の話!!

▼漫画研究会の冊子より：当時描いていたバンド漫画です。
このころ自分もバンドをしていました。



TOIYの上條淳士の絵に憧れ、漫画を描いていた。卒業後に聞いた話だが、当時の部長・棚瀬くんの毎日を描いた漫画『あいらぶタナヤン』が地味な内容ながら岐阜大学漫画研究会創部20周年記念誌のベスト10に選出されたらしい。らき☆すた、ゆるキャン△に先駆け『空気・日常系』を描いていた！

うる星やつら

中学・高校時代、うる星やつらのファンクラブに入っていた。尊敬する押井守監督による2作目の映画ビューティフルドリーマーは、その後のエンドレスエイト・STEINS;GATE・まどマギ・Re ゼロ・青ブタへつづくタイムリープものアニメの初期の超名作。人文系大学の教授が執筆するアニメ文化論の専門書には必ず出てくる。

京都アニメーション

素晴らしいスタジオ。とくに複数の人物がいるときの作画や光と映り込みの表現は群を抜いていると思う。OP／EDテロップで池田晶子さん・西屋太志さんらのお名前を見るたび2019年の夏を思い出す。亡くなった方々の残した名作たち。ハルヒ、けいおん、ユーフォはもう何周したことか。



▲漫画研究会の冊子より：背景として描いた母校岐阜大学

バーカウンターは人生の勉強机である。

BY 島地勝彦

行きつけのバーの話

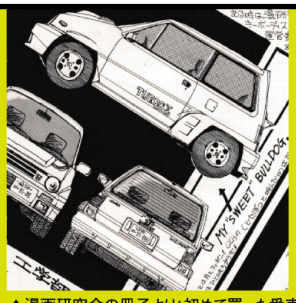
読書好き・映画好きなマスターたち、常連の年配のお客さんたち、そして若いのに考え方のしっかりした大学生から、いろんなことを学ばせてもらっている。そのたび、自分ってまだまだだなと思い知らされる。

車のプラモデル

特に塗装下地へのこだわり。大学祭で仲間を募って作品の展示会も開催。

リアル自動車の話

愛車遍歴やDIYしたカーオーディオ。プラモデルの技術を応用してホンダ・インテグラを全塗装したことも。



▲漫画研究会の冊子より：初めて買った愛車CITY

▼ライブハウスでの音楽活動です
2025.5/10 尾崎豊『シェリー』です。

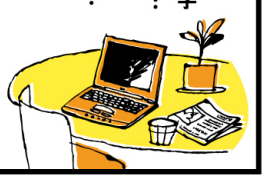


音楽活動の話

学生時代に先輩と組んだバンドではシンセサイザー担当。エレキギターも練習してひとり多重録音での楽曲制作。その後じばらくは、ぼっち・ざ・ろっく！のごとき潜伏期間（ボーカルスクールに15年）、そして現在ライブハウスにて主にピアノを弾きつつ活動中。

★人となりが伝わるコラム…になったのかな？

さて文字カウントしてみよう…
ええっ1454文字!?確か電話で800字ぐらいでと言われていた気がするのだが…
メモで超えてしまった！
まだ書きたいことはたくさんあるのだが…
いつかメモではなく本編を書ける日が来ることを願って。



新任教員紹介

井上 大介 教授　情報学部 情報システム学科



この度、情報学部情報システム学科に着任いたしました。学生の皆さんと共に学び、成長し、素晴らしい未来を築いていけることを楽しみにしています。教育と研究を通じて、皆さんの可能性を最大限に引き出すお手伝いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

吉田 雅彦 准教授　情報学部 情報デザイン学科



情報デザイン学科に着任した吉田と申します。知多半島を中心とした尾張地域の魅力を伝える活動を続けてきました。今後は地域との繋がりを活かした情報発信や地域連携にも力を入れ、地域社会に貢献するとともに学生の成長と学園の発展に寄与できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木 繁聡 講師　教養部



まず私は文系なので、理系のみなさんの専門のお話を聞けるのを楽しみにしています。そして、私の専門分野である教育学についても、みなさんから学ぶことがたくさんあると思います。これまでの学校生活で感じてきたことを授業でぜひ教えてください。お互いに学びを深め合えるような時間を過ごせることを楽しみにしています。

人　事

●退職

【法人本部・大学】

〈教育職員〉(2025.3.31)

横山 弥生　(情報学部 情報デザイン学科 教授)
神谷 康夫　(教養部 教授)
桐山 岳寛　(情報学部 情報デザイン学科 准教授)
坂倉 守昭　(工学部 機械システム工学科 特任教員)
杉本 幸雄　(情報学部 情報デザイン学科 特任教員)
服部 文彦　(教養部 特任教員)

〈事務職員〉(2025.3.31)

齊藤 貴伸　(法人本部 大学事務部 研究・社会連携推進室)

〈嘱託職員〉(2025.3.31)

織部 尚　(工学部 機械工学科)
前田 明彦　(工学部 電気電子工学科)
坂 雄太　(情報学部 情報デザイン学科)

【高校】

〈教諭〉(2025.3.31)

加藤 直城　(工業)
鈴木 厚之　(工業)
片山 勤　(工業)
岡田 鏡子　(英語)
鈴木 和美　(養護)

●採用

【法人本部・大学】

〈教育職員〉(2025.4.1)

井上 大介　情報学部 情報システム学科 教授
吉田 雅彦　情報学部 情報デザイン学科 准教授
鈴木 繁聡　教養部 講師

〈教育職員〉(任期:2025.4.1~2026.3.31)

小森 和武　工学部 機械システム工学科 特任教員
溝口 正信　工学部 機械システム工学科 特任教員
　併任 建築学部 建築学科 特任教員
上田 浩次　情報学部 情報システム学科 特任教員
小高 直樹　情報学部 情報デザイン学科 特任教員
横山 弥生　情報学部 情報デザイン学科 特任教員
成田 淳一郎　教養部 特任教員
松井 豊次　教養部 特任教員
神谷 康夫　教養部 特任教員

〈事務職員〉(2025.4.1)

小川 道治　法人本部 大学事務部 研究・社会連携推進室 主任部員
小芦 佳広　法人本部 企画室
田村 竜也　法人本部 大学事務部 入試・広報室
長野 恵里加　法人本部 大学事務部 教務室

〈嘱託職員〉(2025.4.1)

松原 利朗　工学部 機械工学科
髙野 葵　情報学部 情報デザイン学科
藤田 祐子　法人本部 大学事務部 キャリア支援室

●昇任

【法人本部・大学】

〈教育職員〉(2025.4.1)

岡本 洋輔　建築学部 建築学科 教授
　併任 工学部 建築学科 教授
船橋 仁奈　建築学部 建築学科 教授
　併任 工学部 建築学科 教授
舟橋 慶祐　情報学部 情報デザイン学科 教授
川澄 誠　教養部 教授

〈事務職員〉(2025.4.1)

高橋 昌弘　法人本部 総務部 管財室長(次長待遇)
信濃 和彦　法人本部 総務部 人事室長(次長待遇)
森井 浩一　法人本部 大学事務部 研究・社会連携推進室長(次長待遇)
西村 勇樹　法人本部 総務部 管財室主任部員(次長待遇)
菱田 敏貴　法人本部 企画室 兼 法人本部 総務部 人事室(主査待遇)
大見 尚子　法人本部 総務部 人事室(主査待遇)
北出 真　法人本部 大学事務部 キャリア支援室(主査待遇)

●異動

【法人本部・大学】

〈事務職員〉(2025.4.1)

八田 忠　法人本部 大学事務部 学生室

●委嘱

【法人本部・大学】

〈役職〉

(任期:2025.4.1~2026.3.31)

髙村 誠一　学長付

(任期:2025.4.1~2025.9.30)

森井 浩一　研究・社会連携推進センター 副センター長

〈客員教授〉

(任期:2025.4.1~2026.3.31)

跡部 昌彦
一ノ瀬 昇
岩橋 尊嗣
栗本 英和
長谷川 明子
山口 一

〈客員准教授〉

(任期:2025.4.1~2026.3.31)

三浦 均

●称号授与

【大学】

〈名誉教授〉(2025.4.1)

横山 弥生　(元情報学部 情報デザイン学科 教授)

「DAIDO CAMPUS」の表紙を情報デザイン学科3年生の 杉本伽世さんがデザインしました

表紙の製作のテーマは、「変化・多様性」です。絵具を題材にした奥行きのあるデザインにしました。様々な色が混ざり合い積み重なっていく様子から、いろいろな経験や知識、思いなどが積み重なり、自分のものにしていこうという思いを込めました。また、どんな色、どんな形にもなれる絵具のような思考や多様性を持つことを表現しました。全体的に夏のさわやかさを取り入れるため青を基調にし、重なり合う部分の色を変化させました。奥行きを出すことが難しく、影の落ち方や色、重なる順番など、単純な形だからこそ細かいところを意識しました。

この表紙の絵具に、さらに自分の色や形を加えていき、これからの経験なども積み重ねていってほしいです。



大同大学 DAIDO UNIVERSITY　DAIDO CAMPUS ISSUE 112　2025年7月16日発行(季刊)
編集・発行／大同大学入試・広報室　〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125 E-mail koho@daido-it.ac.jp URL https://www.daido-it.ac.jp